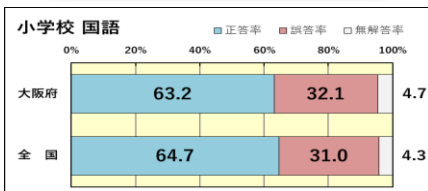


・新学習指導要領の趣旨を踏まえ、平成31年度（令和元年度）調査より、従来のA問題・B問題という区分を見直し、知識・活用を一体的に問う調査問題に変更された。
 ・令和2年度調査は新型コロナウイルス感染症にかかる休校等の影響を考慮し、実施しないことになったため、本年度は2年ぶりの実施。

小学校国語

平均正答率は63.2%である。目的や意図に応じて、資料を使って話すことはできている。一方で、目的に応じて、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付けたり、中心となる語や文を見付けて要約したりすることに課題が見られ、引き続き指導の充実が求められる。

正答率・無解答率比較

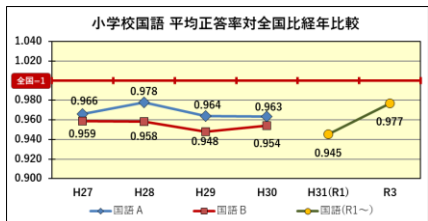


平均正答率は全国を1.5ポイント下回った

全国平均正答率が64.7%であるのに対し、大阪府の平均正答率は63.2%であり、1.5ポイント全国を下回った。

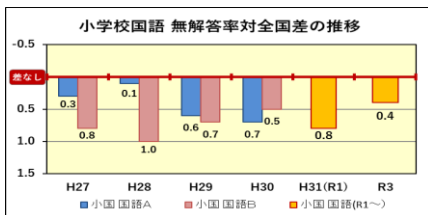
平均正答率対全国比は0.977ポイントだった

全国平均正答率を1とすると、大阪府の平均正答率の対全国比は0.977であった。平成31年度（令和元年度）に比べ、0.032ポイント上昇した。

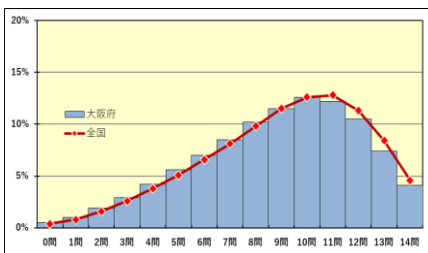


無解答率は全国と比べ0.4ポイント差があった

全国無解答率が4.3%であるのに対し、大阪府の無解答率は4.7%であった。全国より0.4ポイント高いが、平成31年度（令和元年度）より0.4ポイント低くなった。



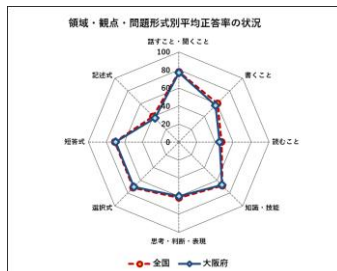
正答数分布



正答数分布の様子は全国と同傾向

- 大阪府は10問、全国は11問を頂点とした右寄りの山型を描いている。
- 大阪府は0～8問では、全国よりも正答数分布の割合は高く、11～14問では全国よりも低い。

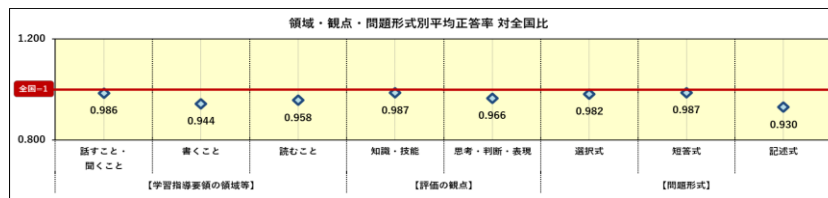
領域・観点・問題形式別比較



領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向

○レーダーチャートの描くラインは、全国の状況とほぼ重なるように同傾向を示している。

○今回の出題内容においては、大阪府・全国とも、「話すこと・聞くこと」の領域で高い値を示し、「読むこと」の領域、「記述式」で特に低い値を示している。



○対全国比では、「書くこと」「記述式」で低い値を示している。

具体的な児童の状況等

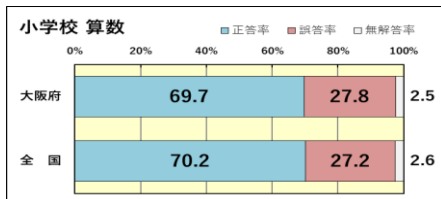
- ◇目的に応じて、話の内容が明確になるように、スピーチの構成を考えることはできている。（津田梅子の二つの業績を明確に伝えるために、【スピーチメモ】と【スピーチ】の練習で友だちが話した構成の説明として適切なものを選択する。[1]一）
- ◇目的や意図に応じて、資料を使って話すことはできている。（津田梅子についての【スピーチ】の練習の□の部分で話す内容として適切なものを選択する。[1]三）
- ◆目的に応じて、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付けることに課題がある。（面ファスナーに関する【資料】を読み、何をヒントに、どのような仕組みの面ファスナーを作り出したのかをまとめて書く。[2]三）
- ◆目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することに課題がある。（面ファスナーに関する【資料】を読み、面ファスナーが、国際宇宙ステーションの中でどのように使われているのかをまとめて書く。[2]四）

・新学習指導要領の趣旨を踏まえ、平成31年度（令和元年度）調査より、従来のA問題・B問題という区分を見直し、知識・活用を一体的に問う調査問題に変更された。
 ・令和2年度調査は新型コロナウイルス感染症にかかる休校等の影響を考慮し、実施しないことになったため、本年度は2年ぶりの実施。

小学校算数

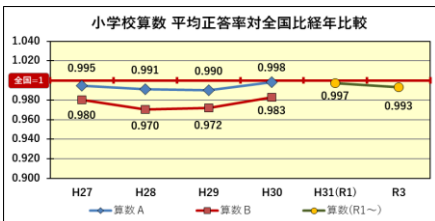
平均正答率は69.7%である。示された除法の結果について、日常生活の場面に即して判断したり、棒グラフから、項目間の関係を読み取ることはできている。一方で、図形の面積の求め方を解釈し、その求め方について説明したりするなどの課題に対する指導の充実が求められる。また、無回答率については、平成27年度からの6年間で初めて全国より低かった。

正答率・無解答率比較



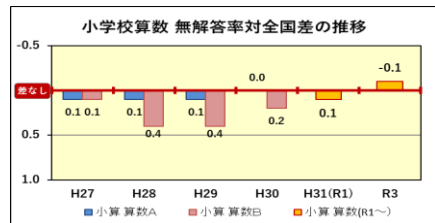
平均正答率は全国を0.5ポイント下回った

全国の平均正答率が70.2%であるのに対し、大阪府の平均正答率は69.7%であり、0.5ポイント全国を下回った。



平均正答率対全国比は0.993ポイントだった

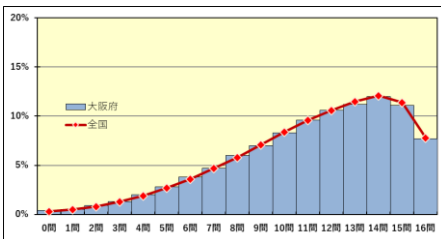
全国の平均正答率を1とすると、大阪府の平均正答率の対全国比は、0.993だった。



無解答率は全国と比べ0.1ポイント低かった

全国の無解答率が2.6%であるのに対し、大阪府の無解答率は2.5%であった。なお、平成27年度以降全国より高かったが、令和3年度は、全国より0.1ポイント低かった。

正答数分布

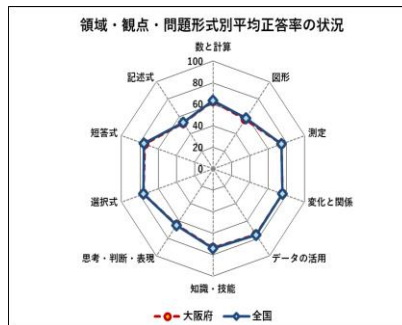


正答数分布の様子は全国と同傾向

○大阪府・全国ともに14問を頂点とした右寄りの山型を描いている。

○大阪府は0～8問では、全国よりも正答数分布の割合は高い傾向があり、9～16問では、全国よりも低い傾向がある。

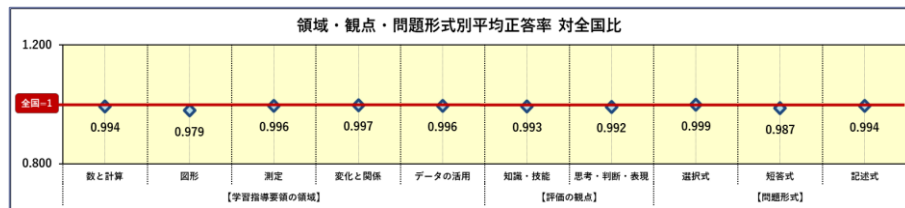
領域・観点・問題形式別比較



領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向

○レーダーチャートの各ラインは、全国の状況とほぼ重なるように同傾向を示している。

○今回の出題内容においては、大阪府・全国とも「測定」「変化と関係」「データの活用」でやや高く、「図形」「記述式」でやや低い値を示している。



○対全国比では、「図形」でやや低い値を示している。

具体的な児童の状況等

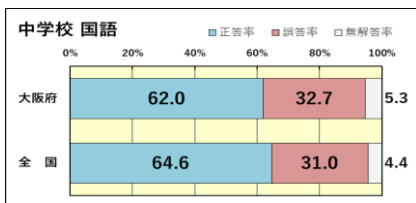
- ◇示された除法の結果について日常生活の場面に即して判断することができている。（余りのある除法の商と余りを基に、23個のボールを6個ずつ箱に入れていくときに必要な箱の数を書く。 $4 \div (1)$ ）
- ◇棒グラフから、数量や項目間の関係を読み取ることはできている。（本の貸し出し冊数について、棒グラフから分かることを選ぶ。 $3 \div (1) \cdot (2)$ ）
- ◇集団の特徴を捉えるために、どのようなデータを集めるべきかを判断することができている。（5年生と6年生の読みたい本と、多くの5年生と6年生に読まれている本を調べるために、適切なデータを選ぶ。 $3 \div (5)$ ）
- ◆小数を用いた倍についての説明を解釈し、ほかの数値の場合に適用して、基準量を1としたときに比較量が示された小数に当たる理由を記述することに課題がある。（30mを1としたときに12mが0.4に当たるわけを書く。 $4 \div (3)$ ）
- ◆三角形の面積の求め方について理解することに課題がある。（直角三角形の面積を求める式と答えを書く。 $2 \div (1)$ ）
- ◆二等辺三角形を組み合わせた平行四辺形の面積の求め方を記述することに課題がある。（二等辺三角形を組み合わせた平行四辺形の面積の求め方と答えを書く。 $2 \div (3)$ ）

・新学習指導要領の趣旨を踏まえ、平成31年度（令和元年度）調査より、従来のA問題・B問題という区分を見直し、知識・活用を一体的に問う調査問題に変更された。
 ・令和2年度調査は新型コロナウイルス感染症にかかる休校等の影響を考慮し、実施しないことになったため、本年度は2年ぶりの実施。

中学校国語

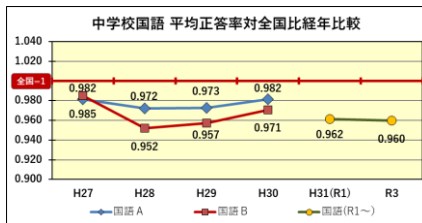
平均正答率は62.0%である。話合いの話題や方向を捉えたり、質問の意図を捉えたりすることはできている。一方で、推敲する場面において、語句や文の使い方、段落相互の関係について考えたり、文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつことに課題があり、指導の充実が求められる。

正答率・無解答率比較



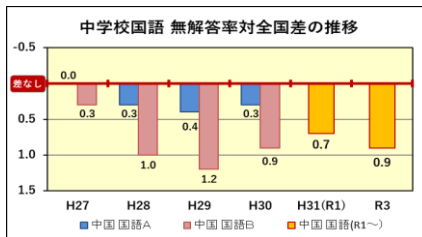
平均正答率は全国を2.6ポイント下回った

全国平均正答率が64.6%であるのに対し、大阪府の平均正答率は62.0%であり、2.6ポイント全国を下回った。



平均正答率対全国比は0.960ポイントだった

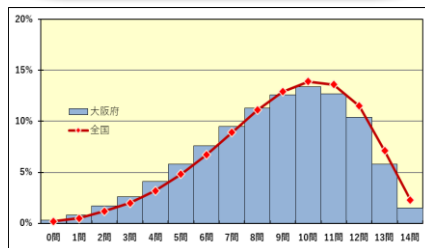
全国平均正答率を1とすると、大阪府の平均正答率の対全国比は、0.960だった。



無解答率は全国と比べ0.9ポイント差があった

全国平均無解答率が4.4%であるのに対し、大阪府の無解答率は5.3%であり、全国より0.9ポイント高い。

正答数分布

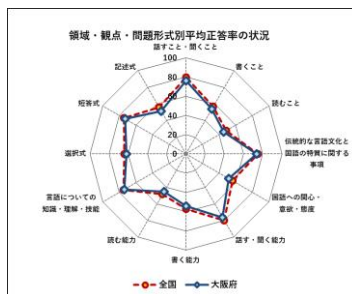


正答数分布の様子は全国と同傾向

○大阪府・全国ともに10問を頂点とした右寄りの山型を描いている。

○大阪府は0～8問では、全国よりも正答数分布の割合は高く、9～14問では全国よりも低い。

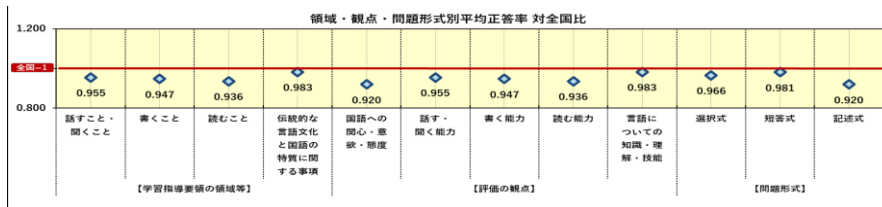
領域・観点・問題形式別比較



領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向

○レーダーチャートの描くラインは、全国との状況とほぼ重なるように同傾向を示している。

○今回の出題内容においては、大阪府・全国とも「話すこと・聞くこと」の領域で高い値を示し、「読むこと」の領域、「記述式」で特に低い値を示している。



○対全国比では、「読むこと」「読む能力」「記述式」で特に低い値を示している。

具体的な生徒の状況等

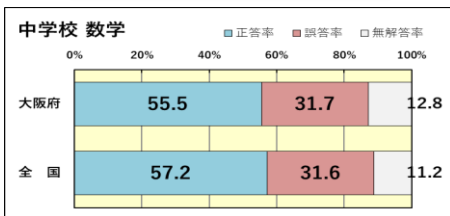
- ◇話合いの話題や方向を捉えることはできている。
 (話合いでの司会の発言の役割について説明したもとして適切なものを選択する。[1] 一)
- ◇話合いの中での質問の意図を捉えることはできている。
 (話合いでの発言について説明したもとして適切なものを選択する。[1] 二)
- ◆書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書くことに課題がある。
 (意見文の下書きを直した意図として適切なものを選択する。[2] 一)
- ◆文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつことに課題がある。
 (「吾輩」が「黒」をどのように評価し、どのような接し方をしているかや、そのような接し方をどう思うかを書く。[3] 四)

・新学習指導要領の趣旨を踏まえ、平成31年度（令和元年度）調査より、従来のA問題・B問題という区分を見直し、知識・活用を一体的に問う調査問題に変更された。
 ・令和2年度調査は新型コロナウイルス感染症にかかる休校等の影響を考慮し、実施しないことになったため、本年度は2年ぶりの実施。

中学校数学

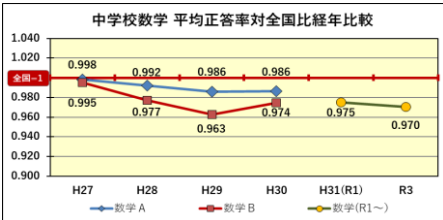
平均正答率は55.5%である。与えられたデータから中央値を求めることについては改善の傾向が見られ、与えられた表やグラフから必要な情報を適切に読み取ることはできている。一方で、図形の領域、資料の活用の領域において課題があり、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法や判断の理由を数学的な表現を用いて説明することの指導の充実が求められる。

正答率・無解答率比較



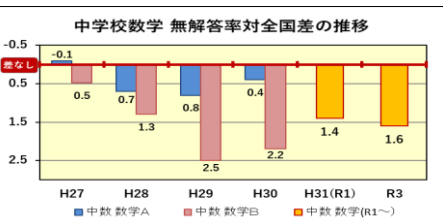
平均正答率は全国を1.7ポイント下回った

全国平均正答率が57.2%であるのに対し、大阪府の平均正答率は55.5%であり、1.7ポイント全国を下回った。



平均正答率対全国比は0.970ポイントだった

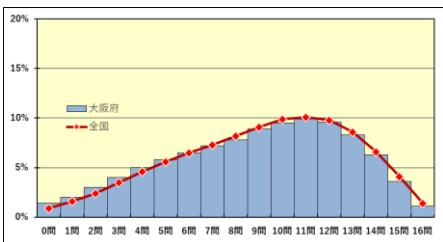
全国平均正答率を1とすると、大阪府の平均正答率の対全国比は、0.970だった。



無解答率は全国と比べ1.6ポイント差があった

全国無解答率が11.2%であるのに対し、大阪府の無解答率は12.8%であり、全国より1.6ポイント高い。

正答数分布

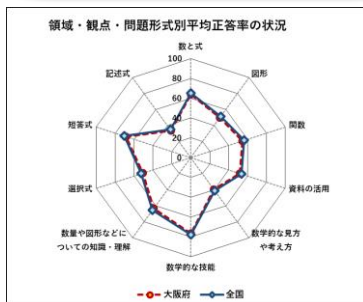


正答数分布の様子は全国と同傾向

○大阪府・全国ともに11問を頂点とした右寄りの山型を描いている。

○大阪府は0～5問では、全国よりも正答数分布の割合が高く、6問では等しく、7問～16問では全国より低い。

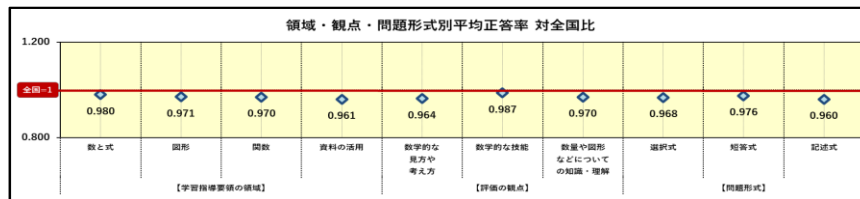
領域・観点・問題形式別比較



領域・観点・問題形式別の状況は概ね全国と同傾向

○レーダーチャートの描くラインは、全国との状況とほぼ重なるように同傾向を示している。

○今回の出題内容においては、大阪府・全国とも「数と式」「数学的な技能」でやや高く、「記述式」「数学的な見方や考え方」でやや低い値を示している。



○対全国比では、「資料の活用」「数学的な見方や考え方」「記述式」で低い値を示している。

具体的な生徒の状況等

- ◇ 整式の加法と減法の計算ができている。（ $(5x + 6y) - (3x - 2y)$ を計算する。^[1]）
- ◇ 与えられたデータから中央値を求めることはできている。改善の傾向が見られる。（反復横とびの記録の中央値を求める。^[5]）
- ◇ 与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることはできている。（与えられた表やグラフから、砂の重さが75gのときに、砂が落ちきるまでの時間が36.0秒であったことを表す点を求める。^[7]（1））
- ◆ 日常的な事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに引き続き課題がある。（与えられた表やグラフを用いて、2分をはかるために必要な砂の重さを求める方法を説明する。^[7]（2））
- ◆ 2つの分布の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題がある。（「日照時間が6時間以上の日は、6時間未満の日より気温差が大きい傾向にある」と主張できる理由を、グラフの特徴を基に説明する。^[8]（3））
- ◆ ある条件の下で、いつでも成り立つ図形の性質を見いだし、それを数学的に表現することに課題がある。（ $\angle ARG$ や $\angle ASG$ の大きさについていつでもいえることを書く。^[9]（3））